

発行所
真宗大谷派宗務所
代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料
送料 1部1カ年1,300円
(1,182円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404
加入者名 東本願寺出版部

全国の別院で焼天講座を開催します。詳しくはHPをご確認ください。

東本願寺 検索

どうぼうしんぶん

同朋新聞

Dōbō Shimbun

7

Vol. 800

July 2024

同朋新聞は、創刊800号を迎えました

『同朋新聞』は、
1960(昭和35)年3月発行の『真宗タイムス』を前身とし、
以来64年間みなさまとご縁を紡いでまいりました。
これからも親鸞聖人の教えや宗派の大切な情報を、
ご門徒のみなさまをはじめあらゆる方々にお届けいたします。



Vol. 400
(1991年3月号)



Vol. 500
(1999年7月号)



Vol. 600
(2007年11月号)



Vol. 700
(2016年3月号)

(1) 第800号 同朋新聞 2024年(令和6年)7月1日(毎月1日発行)

発行所 真宗大谷派宗務所 代表者 木越 渉
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部) 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る TEL.075-371-9189(東本願寺出版)

購読料 無料 送料 1部1カ年1,300円 (1,182円+税10%)※部数により変動
振替口座番号 01000-6-27404 加入者名 東本願寺出版部

全国の別院で焼天講座を開催します。詳しくはHPをご確認ください。

東本願寺 検索

同朋新聞

Dōbō Shimbun 7 Vol. 800 July 2024

ハワイ別院のボンダンス(アメリカハワイ開教区)

今月の写真

「オギヤ」の声
東京教区 東京4組 専科 二階堂 行海(66)

今月の法話 如是我聞

CONTENTS

- 23面 人懐きの50面相
- 通知表に子どもたちのすべては表せない 國分 一哉(5)
- 現在を生きる 第29回 通達リレポート 第12回 縁起の巻 第12回
- 5面 ひかりを伝えたいと 七高僧きんぎょ 第7回
- 6面 「足跡陀羅」問題

令和6年能登半島地震で被害に遭われました被災者の方々に対し、衷心よりお見舞い申し上げます



創刊号
(1960年3月号)



Vol. 100
(1966年3月号)



Vol. 200
(1974年7月号)



Vol. 300
(1982年11月号)

Vol. 800



1年分のバックナンバーを無料で公開しています。ぜひお読みください。

この紙面では、さまざまな人とおして、現代社会の抱える課題や人間そのものについて考え、宗祖御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」、慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」の学びを深めていきたいと思います。

人間のいのちの相

すがた
連載



通知表に子どもたちのすべては表せな

学期末に先生から渡される通知表。誰もその評価に一喜一憂した経験があるのではないだろうか。その通知表に疑問を持ち、通知表をなくす決断をした学校の校長を務めた國分一哉さんのお話から人間の相を考えます。



1962年生まれ。1985年に教員に採用され、主に小学校で教職につく。2018年4月、神奈川県茅ヶ崎市立香川小学校に校長として赴任。2023年3月に退任し、現在も茅ヶ崎市内の小学校で勤務。

インタビュー
國分一哉さん

通知表はなんのため？

—— 國分さんは、神奈川県茅ヶ崎市立香川小学校で校長をされていた時に通知表を廃止されましたが、どのような経緯があったのでしょうか。

私は若い頃から通知表で子どもたちは本当に伸びているのかという疑問を持って教員をしていました。そこで、2018年に香川小学校に校長として赴任した際、2年後の2020年度から学習指導要領が改訂され、評価の仕方や観点が変わるため、香川小学校としてどんな通知表を作るかという話し合いを始めたのです。

実は、通知表の形や内容については各学校の判断に任されています。そのため、まずは今までの通知表の疑問点を出し

合い、今一度評価について考えていくことにしました。

通知表は、学習の一部の評価を知らせるだけのものなのに、あたかも子どものすべてを評価しているように受けとめられています。教員それぞれがそこに疑問を持っていました。

テストや学習目標の観点で良い結果が出なければどうしても通知表の評価は良くないものになってしまう、その他の場面でどんなに良いことをしてもそれを表すことができません。また、学校ではそれぞれ一人ひとりに違いがあることを認めているのに、通知表になると画一的な評価がついてしまいます。そして、そうした評価があるからこそ、誰もがより上位を

目に見えないランク付けが消えた

—— 通知表をなくしたことで、変化はありましたか。

運動会では、保護者も先生も同じ場面を見ていて、先生方の評価はみんなプラスなんです。子どもたちはあんなに笑顔で、楽しんで、協力できてよかったねと思っているのに、半分の親が反対だったことは、先生たちにとって通知表の廃止を非難されるよりもショックが大きかったと思います。

中学生や高校生になれば、通知表が渡され、成績の評価をされるようになるので、保護者が不安になる気持ちもわかりますが、小学校は中学校の準備段階の学校ではあります。小学校6年間の中で何を積み重ねていくかが大事なことで、私たちがやっていることに自信を持つと教員も話しました。

保護者は中学校でのギャップを心配しますが、中学校の先生に聞いてみると、子どもはすぐに順応するし、小学校と中学校は違う場所なんだということを理解すれば、何も問題はないうと返ってきました。

「違いを認める」ということ

—— 通知表で評価をすることの、どんな点に限界を感じておられますか。

通知表の基準は、誰かが決めた枠に当てはめていくことだと思うんです。それは例えば学校の入試のように、入学という目的があって、それに向かうための評価であれば、意味はあるし、やらざるを得ないところはあると思うんです。しかし、小学校で行っている評価は、ゴールが決まっているのではないかと思います。日本では、オールマイティに何でもできるこ

とを求めるような教育が行われています。その発想を変えないと、社会は変わっていかないと思います。そして、学校での評価というのは、決められた教科の評価ではなくて、その子の良いところを羅列するだけでもいいのかもしれないという思いがあるんです。

例えば、算数で言えば、計算が得意な子、図形が得意な子、文章題が得意な子など、いろいろなタイプの子がいます。算数という教科を勉強していく中で、強み

時間がかかるんですよね。先生によっても100時間を超えるし、平均でも60〜70時間かかっているその時間を、子どもたちと向き合う時間に使えば、その方が良いのではないかと、という話になり、通知表をなくしてみようということになりました。

だから、最初から通知表をなくしようという話し合いをしたのではなくて、保護者と教員側が一体となって、子どもたち一人ひとりの健やかな成長のために何をすべきかを考えた結果なんですよ。

通知表をなくしたと言っていると、何かすごく大胆な改革のように聞こえますが、私たちとしては、評価の伝え方や表現の仕方を変えていこうと思っただけなんです。

先生たちは、授業が本当に子どもたちの学習意欲を刺激しているのかとか、本となる部分だけを評価してあげればいい。子どもたちには選択肢がたくさんあるわけだから、将来の方向性を選ぶ時に、自分の強みを知っている方がきっと良い影響がありますよね。

公立学校なので、それなりの評価はしますし、通知表がなくなってもその評価を伝える用意はしっかりしています。しかし、それより、教員は今以上に子どもたちの良さを把握しているから、面談などの場面でそれを保護者に伝えることができます。

子どもたちは、自分のためなところはちゃんとわかっています。だからといって、褒めるだけでもだめで、それぞれの子どもが「認める」ということが重要なのではないかと思います。「できる」、「できない」、「よ

りも」、「認める」という考え方が広まれば、友だち同士で互いの良さを認め合うことも出てくると思います。

比べて競い合うことも大切だけれども、それを全員参加でさせなければいけないところが、学校の難しいところですよ。僕は、教員や子どもたちに、「みんなが同じことをやるのが平等ではないんだよ」と話しています。個々人それぞれの背景や、それぞれの力を考えた上での平等というのがあると思うんです。

「隣のクラスはこうしているのに、なぜうちのクラスはこうしているの、なぜうちのこともあるのですが、それぞれの先生が真剣に教育に向かい合っていて、同じゴールを目指しているんですよ」と説明しています。

来子どもたちに求めるものは何なのかと考えるようになりました。

ある若い先生から、「私たちは学期末の通知表を保護者に渡したら、仕事が一段落したような感覚があった。そのために授業を組み立てていましたが、子どもたちを見つめて、その時々の変化をしっかり捉えて、それを授業にいかさないといけないと思うようになりました」と言われました。

先生たちも、子どもの時は通知表をもらい、評価をされてきた人たちです。私も含め、そこに疑問を持ち、これから生きていく子どもたちにとって何が最善かと考えるようになったのが教員の一歩の変化だと思っています。

子どもたちについては、成績がよかった子の中には、不満もあったようですが、8割ぐらいの子はなくなつてよかったと思っているみたいです。

私が嫌だったのは、通知表による子ど

—— 違いを認めていくということですね。今後、次のステップとして考えておられることはありますか。

もう校長ではありませんので、仮定の話になりますが、通知表をなくすだけではなく、テストによる評価を考え直すといういけないと思っていました。テストは、本来自分を知るためのものであって、他人と比べるものではないと思います。子ども自身がそれを感じ取れるような教育をしないと、いけないと思います。

近年、個の大切さや多様化が言われていますが、学校教育では、一つのテストで全員の評価をし、序列を作るということがまだ残っていますよね。そういうあり方を変えていくためには、どうしたらいいかなど。

学校運営は、本来子どもと触れ合っている先生たちで作っていくものだと思います。不登校が増えていること二つとつても、もう昔ながらの学校教育ではだめだと、子どもに突きつけられているわけじゃないですか。その事実を受けとめて、学校や教員が変わっていかないと、いけない。組織に順応できない子の方が悪いという発想が残っている限り問題は解決しないと思います。多くの学校が少しでも変化を起こしてくれば大きなうねりになるかな、と思って二石を投じたんですけれど、通知表をなくすということからは、突飛なケースだと思われたのかもしれない、なかなか他が付いてくる動きにはなっていないんです。しかし、何か変わらなきゃと思っただけは、まだまだ公立学校も変われると思っています。

(一)



ハワイ別院の日曜礼拝の様子

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市にある東本願寺ハワイ別院。そこで毎週日曜日に開かれる仏法聴聞の場、サンデーサービス(日曜礼拝)に必ず参加されている沼野滋さん。毎週、サービズブック(勤行集)を手にお勤めをされ、僧侶の法話に熱心に耳を傾けられている。別院の理事会の一員として運営にも

いまを生きる

第249回

今号は海外特別編。ご門徒の方々や各地で開かれている同朋の会を紹介します。

東海岸から南の島へつながるご縁



沼野滋さん(一番左)ハワイ開教区のみなさんと

ハワイ開教区
東本願寺ハワイ別院門徒

沼野 滋さん(83歳)

尽力され、他のメンバー(門徒)とともにお寺を維持されている。沼野さんは、1965年に単身で渡米し、ニューヨークで写真店を多数経営されていた。そんな沼野さんが最初に浄土真宗に出あったきっかけは、ニューヨークを中心に活動されている名倉幹北米開教区開教使が開催している静坐(正座)の会への参加だった。65歳で経営の第一線から退かれ、その後、後の生活を模索されている時、日本人の僧侶が静坐の会を開いていると人伝に聞き、週1回のペースで参加するようになったという。

最初はただ正座をして心を落ち着かせる目的だったが、「名倉さんと毎週触れ合っているうちに自然と仏教に興味をもちはじめたのかな」と振り返る。その後ハワイへ移住されることが決まった時、名倉開教使からの勧めもあって、移住当初から東本願寺ハワイ別院に足を運び、毎週の日曜礼拝や行事に参加されるようになった。さらに2022年に帰敬式を受式、2023年には本山の慶讃法要にも参加された。初めての本山参拝で印象的だったことを伺うと、「メンバーがお寺を守っているという点は日本もアメリカも同じなんだなと感じたね」と思いをお聞かせいただいた。

通信員リレーレポート

ハワイ開教監督部



お寺の掲示板

第12回

お寺の掲示板に込められたさまざまな願いを、今月の言葉と一緒に毎月お届けします。



浄泉寺(京都教区 近江第2組)
滋賀県草津市野路6-11-26
住職 黒川了見

雑行も
棄てられず
本願にも
帰れない
この私

宗祖親鸞聖人は師、法然上人に出遇われた喜びを「雑行を棄てて本願に帰す」と「教行信証」に書かれました。私自身は50歳で、住職になり7年目ですが、お念仏を称えながらも自分の思いにとらわれて過ごす日々です。仏の御心(本願)をいただくことができていない我が身に気づかされ、この法語を書かせていただきました。

旧東海道近くにある玉川山浄泉寺。もとは、野路城の一角に「十禅念仏道場」として建立されたのが始まりだという。

お寺の掲示板は30年ほど前に前任職によって山門横に作られた。今は前任職や任職の考えた法語を、幼少期から書道習っている長女が揮毫し、3世代で取り組んでいる。今回は、親鸞聖人の言葉を自身の身に引き当てて、住職の了見さんが考えられた言葉をご紹介いただいた。

「お参りさせていただき、お家の方だけではなく、いろいろな方に言葉に出遇っていただきたい」と語る了見さん。また「お寺にはご門徒さんだけでなく、散策でお寺に立ち寄る人もいらっしやいます。その方々にも寺報を手にとり、もらえるように袋に入れ、掲示板の下に提げています。法語と寺報をいつも楽しみにされている方もいらっしやいます」とも語られた。

世代を超えて作られている浄泉寺の伝道掲示板は、家族の歴史と結束を次の世代に受け継ぎながら、人々に教えを届けているのだと感じた。

京都教区通信員
治田 保男

東本願寺 門徒勤行

読誦：東本願寺御堂衆 【収録】正信偈草四句目下 / 仏説阿彌陀經ほか

真宗大谷派 DVD 2枚組
19,580円(税込)

真宗大谷派の立華について、本山様式にのっとり、実演と丁寧な解説で指導。

1. 立華の基礎実践講座
2. 立華のレッスン・修得の実際

監修：平等明信師
構成：仁科和志師
全90分収録

情熱溢れる語り口と深い
信心で語り続けたご法話。

◆通夜法話 この悲しみを縁として

◆通夜法話 別れは會う為にこそある

◆抱かれてあり

◆温もりの輪が広がる

各巻 2,200円(税込)

CD 2,970円(税込 / CDサイズ経本付)
カセットテープ 2,530円(税込 / お経カード付)

蓮如上人御一代記 (説教) 祖父江省念
CD 5枚組 13,200円(税込)

本願寺中興の祖、蓮如上人
のご一生を節談説教で辿ります。

ご誕生・生母との別れ / 比叡山での修行 / 御文製作 / 本願寺焼討

本光坊の報恩 / 加賀一向一揆 / 肉付の面 / 源右衛門の生首 / 大阪建立 / ご往生

京都市下京区七条通大宮西入

市原栄光堂

TEL 075(371)6843 FAX 075(371)8685

永田文昌堂

富尾武弘著 定価3850円(税込)

釈迦牟尼仏陀伝

初転法輪への道

本書は「方広大莊嚴經」に基づき、仏陀の伝記であるボロブドゥール寺院の百二十面全ての浮彫パネルを、釈迦の全容を示すものとして解説する。釈尊の成長に合わせ、種々な体験を経て、大乘仏教成立に至る過程「初転法輪」迄を解説する。

『大無量寿經』読本一

北塔光昇著 定価1320円(税込)

「大無量寿經」を初めて学ぶ方々にも、話し言葉で簡易に読める解説書。読みやすい分量に数回にわたって、「大無量寿經」を味わう。今回の読本一は、「大無量寿經」を読み進めるに当たって必要な基礎知識を中心にまとめる。

最新刊

真宗からの華嚴・天台

読本一 經典編

北塔光昇著 定価1980円(税込)

一仏乘の基本的な宗旨に華嚴宗と天台宗があげられ、これらは真宗僧侶が親鸞聖人の教えを学ぶ基礎として非常に重要である。この書では華嚴・天台の教義を学ぶ前提として、それらの根本經典の内容を真宗との関係をも考えながら概観する。

〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

親鸞聖人がお念仏の教を自分のところまで届けてくださった師として、生涯大切に仰がれた方々がいます。「七高僧」と呼ばれるインドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)。そして「和国の教主」と仰がれた聖徳太子です。親鸞聖人は彼らからどんな「ひかり」を受け取られたのでしょうか。天親について、3回にわたってたずねています。

ひかり

七高僧と聖徳太子

第7回

天親菩薩



本願力にあいぬれば

むなしくすぎる

ひとぞなき

功德の宝海

みちみちて

煩惱の濁水

へだてなし

〔高僧和讃〕

『真宗聖典 第二版』五九〇頁

〔現代語訳〕

阿弥陀仏の本願のはたらきに遇うことができたのならば、むなしく生涯を終えてしまう人なんていないのだ。その功德の宝は海のように満ちて、それぞれに異なる煩惱の濁りも、広大な海ではへだたりが無くなる。

さとりはどこから

天親菩薩は、私たちのありさまが「煩惱成就」であると見出されました。仏教が目指すさとりを獲るには、煩惱を断じる以外にはあり得ないと受けとめられてきました。これによると、煩惱とさとりとは正反対のもので、では、煩惱にまみれた私たちには、さとりは無縁なものなのでしょうか。仏教では縁起という考え方を重視します。縁起とは、結果があれば必ずその原因があるということ。さとりという結果があるのなら、その原因がなくてはなりません。原因もないところに突然さとりというものが見られることはありません。では、さとりはどこから生ずるのでしょうか。

さとりのもと

天親菩薩が大成された唯識学派では、私たちの煩惱は、心のはたらきである「識」から起こるとされました。そして、さとりの智慧は煩惱の根源である識が転じられることによつて獲られるのだとされます。これを「転識得智」といいます。煩惱がそのままさとりではありません。その一方で、煩惱なくしてはさとりもあり得ないということです。

煩惱成就の私もまた仏と成ることができ、世界が、ここに開かれるのです。「高原の陸地には蓮華(分陀利華)は生えないが、

低地の泥だらけのところこそ生える」(『維摩経』卷中「仏道品」という言葉を親鸞聖人は何度も引用しておられます。蓮華はさとりを、低地の泥は煩惱を、それぞれ喩えたものです。

衆水、海に入りて一味なるが如し

私たちは一人ひとり違います。それはそれぞれの川にはそれぞれに違いがあるようなものです。しかしながら、いったん大海に流れ込んだならば、どの川から流れ込んだ水かを区別することはできません。「正信偈」では「如衆水入海一味」(『真宗大谷派勸行集』九頁)とうたわれています。

ここで「海」に喩えられているのは、法蔵菩薩の本願のはたらきです。本願のはたらきほどのような衆生であつても区別することはありません。天親菩薩は、法蔵菩薩が立てた本願というひかりに注目しました。その結果、煩惱を断じていく伝統的な方法以外の道があることを確かめたのでした。それでも、本願のはたらきに出遇つたならば、むなしく終わつてしまうことはありません。煩惱成就の私たちも、本願の大海原に流れ込めば、平等にさとりの世界に入ることができるのです。



あきら 采翠
大谷大学文学部
仏教学科教授
京都都区近江第25西組
長光寺住職

特集

「是旃陀羅」問題

宗門では、差別からの解放を願う「御同朋」の問いかけを受けて、「是旃陀羅」問題への取り組みを進めています。今号では、その取り組みの依りどころとなる「是旃陀羅」問題の学習テキストにおいて確かめられた課題と願いについて紹介します。



※写真は、差別からの解放を求める、インドのサンガラトナ=マナケ氏の寺院

私たち真宗門徒にとって大切な經典の一つである、『仏説観無量寿經(以下、『観經』)序分には、古代インドの王舎城でおきた王位を奪う事件が描かれています。その中で、父王を幽閉し、王位を奪った阿闍世王は、父を助けようとした母后である韋提希をも殺そうとします。しかし、それは王族の秩序を乱す行為であると大臣たちに諫められた阿闍世は、彼らの離反を恐れ殺すことは止まるものの、韋提希もまた幽閉するという事件です。そして、この事件に巻き込まれた韋提希が、自らの苦しみを仏陀釈尊に訴え、救いを求める姿が説かれています。

この大臣が諫める言葉の中に、「是旃陀羅」という語が説かれています。この語について、私たち宗門は長い間、誤った受けとめのままに教化の営みをしてきたことで、社会に対して差別を是認する根拠を生み出し、被差別部落の人々に耐え難い苦しみを与えてきました。この罪責は、「是旃陀羅」についての僧侶の教学・教化より起こったものです。宗門に身を置く僧侶一人ひとりが、宗祖ならびに浄土真宗のすべての門徒に対し、深く謝罪しなければなりません。ここにあらためて、宗門のすべての人々とともに『観經』序分を正確に読みなおし、真に正依の經典として受けとめるため、学びを始めます。

「旃陀羅」差別と仏教

「旃陀羅」とは、インドの「チャンダーラ(candala)」という言葉の音写語で、古代インド社会で成立した身分階級の中で、社会の外に排除された賤民階級を表した言葉です。現在は憲法によって賤民階級は廃止されていますが、人々の生活の中で慣習として差別は厳しく存在し、「旃陀羅」は人々を貶める言葉として根強く残り続けています。そのような階級社会の中で、仏陀釈尊は、「生まれがなんだというのか」と、生まれによる差別をはねのける強靱な思想をもって平等な人間関係を聞き、どんな人も道を求めて共に生きるあり方を説き示しています。

教団の歴史的罪責

真宗教団が形成される頃、ともに教えを聞いてきた被差別民衆の人々を、世間の考えに従って、「旃陀羅」の語を用いて、教団から排除しようとする意識が生まれました。その差別的な意識は、宗学に持ち込まれ、『観經』の「是旃陀羅」の解釈の上に無批判に用いられ、さらに布教使による説法の場合などを通じて、人々の意識に差別を根づかせてきた教団の罪責があります。

「旃陀羅」の問題性が取り上げられたのは被差別部落の人々の中からでした。特に『観經』序分の「是旃陀羅」については、全国水平社から東西両本願寺に問題提起がなされ、あらためて2013年に部落解放同盟広島県連合会から問われています。以来、対話と検討を繰り返してきましたが、100年以上も問われながらも現在まで克服しえないのは、僧侶が無知・無関心であり続けてきたからにはかならないのです。

『観經』序分をどのように受けとめるか

仏教の平等思想に立ち帰り、あらためて『観經』序分を読みなおしました。そこで新たに確かめられたことは、「是旃陀羅」という諫めの言葉が、王舎城という社会そのものがもつ差別構造を語るものであり、特定の個人を貶めたり、差別を助長したりするために、ここで語られているのではないということです。そして、この言葉をとおして、そこにまるで空気を吸うかのように差別がある社会を生きている人々の姿が見えてきました。

『観經』序分は、古代インドの差別的な身分社会の現実を語り、韋提希の苦悩の社会的背景を描いているのです。身分社会を是認し助長するものではありません。だからこそ、「旃陀羅」差別を自覚し批判していくことは、『観經』に学んだ現代の私たちの課題です。宗門にかかわるすべての人が、宗祖親鸞聖人の立たれた「われら」の地平に帰る歩みとして、いま一度『観經』の学びに立ちかえりましょう。

2024年度より、各教区・組において、随時、「是旃陀羅」問題についての学びの場が開かれております。ぜひご参加ください。



「是旃陀羅」問題の
学びを深める
ためのテキスト

どちらも無償配布しております。

詳しくは →

解放運動推進本部

検索



書籍の紹介

御同朋を生きる

真宗大谷派(東本願寺)

是旃陀羅問題学習テキスト
『御同朋を生きる』

是旃陀羅問題について

学習冊子

『是旃陀羅問題について』

第351回「蓮如上人御影道中」 — 一代をつなぐ蓮如上人ご教化の旅 —



親子の参加もあった木ノ芽峠越え



砺波平野をはじめて巡行する御輿車

毎年4月23日から5月2日までの10日間、吉崎別院(福井県あわら市)において勤まる蓮如上人御忌法要に合わせ、真宗本廟と吉崎別院の間を蓮如上人の御影のお供として歩く仏事「蓮如上人御影道中」が本年も行われた。

— 昨年の豪雨の影響で、昨年は一部区間の迂回を余儀なくされたが、今年は新型コロナウイルス感染症感染拡大以来5年ぶりに御下向(京都→吉崎)7日間約240キロ、御上洛(吉崎→京都)8日間約280キロの全行程を従来どおり徒歩で歩むことができた。

大型連休にも重なり、道中ではお寺の子ども会が参加した他、親子3代で綱をひく姿や、真新しいスーツ姿で蓮如上人をお待ち受けするお立寄り会所の若い方の姿もあり、この御影道中が子や孫へ相続されていく尊い光景がいたるところで見られた。

また、4月28日には、富山県南砺市において、蓮如上人井波下向道中の実現を願う人々による「蓮如上人井波下向お待ち受け御影巡回」も行われ、御影道中で実際に使用される御輿車をはじめて砺波平野を巡行し、来年迎える蓮如上人井波下向550年に向けた機運を高めるとともに、御影道中のPRがはかられ、「蓮如上人さまのお通り〜」の触れ声が「土徳の地」と呼ばれる砺波の地に響き渡った。

真宗教化センター寺院活性化支援室では、吉崎別院(御影道中)活性化プロジェクトの取り組みを進めており、2048年にお迎えする蓮如上人550回御遠忌を見据え、江戸時代から伝わるこの仏事を次世代に手渡すためのさまざまな取り組みを今後も行っていく。

レポート

宗務改革推進本部 行財政改革に関する 取り組みについて

4月23日、行財政改革検討委員会(真城義磨委員長)から木越渉宗務総長へ「行財政改革検討委員会報告」が提出された。

同委員会は、宗務改革として先行して取り組まれてきた「教区及び組の改編」「門徒戸数調査」に続き「行財政改革」推進に資する取り組みとして2022年8月に設置され、約2年にわたって議論が重ねられてきた。

このたび提出された報告書では、「一人ひとりが仏道に立ちあがる信仰運動・同朋会運動を宗門挙げて推進する」との基本理念・方針のもと、「教化改革」、「組織機構改革」、「財政改革」の視点に立って宗門の将来展望を見据えた現状の課題、今後の方向性について提言されている。

報告書の全文は、宗派ホームページにて公開しています。ぜひ一読ください。

「行財政改革
検討委員会報告」
はこちら →



お知らせ

お東さん ガイド

新たに参議会議員を選出

宗会*を構成する門徒議員である「参議会議員」の通常選挙が任期満了に伴い実施され、65人の議員が選出された(男性58人、女性7人。新任18人、再任47人)。任期は2024年5月1日から3年間。なお、教区・氏名は次のとおり(掲載は期数順、同期数の場合は五十音順)。

※宗会…当派の最高議決機関で、宗議会(僧侶議員)と参議会(門徒議員)の両議会で構成される。

- 【北海道教区】 滑川義幸、佐古光臣、内ヶ島英一、前田憲男
- 【東北教区】 荒谷正裕、佐藤多恵子、元木繁
- 【東京教区】 七尾利明、五来範行、吉原憲孝
- 【新潟教区】 金巻拾子、村松勝藏、久保田幸正、丸山誠、吉田衛
- 【富山教区】 松本弘行、野澤一成、和泉吉隆、大谷幸毅、中島隆敏
- 【能登教区】 岩田弘、出水満、山本正弘
- 【金沢教区】 松原繁光、村谷哲也、森永壽久
- 【小松大聖寺教区】 飴野一郎、福島良一
- 【福井教区】 辻崎保徳、澤善英
- 【岐阜高山教区】 加藤晴郎、赤岩優、杉江勝彦

- 【大垣教区】 高橋賢一、西川一明、成瀬妙子
- 【岡崎教区】 中山恵津子、黒柳芳因、熊谷逸男
- 【名古屋教区】 中山克宏、山田富士雄、家田鐵彦、佐藤芳美、横井富司夫
- 【三重教区】 野崎紘一
- 【長浜教区】 瀬戸川恒雄、中谷幸博
- 【京都教区】 福永莊三、柴田慶三、寺内実、中谷哲夫
- 【大阪教区】 中嶋ひろみ、上田幸一、奥戸義成、山瀬一美
- 【山陽教区】 保田義一、大西道誠
- 【四国教区】 林野忠弘
- 【九州教区】 甲斐一、石坂務、大見政弘、緒方静磨、寺本修一、西尾英一郎、横田義治

しょうせい えん 渉成園 庭園維持寄付金改定



渉成園(枳殻邸)では、2006年から参観いただいた方々に庭園維持寄付金をお願いしてまいりました。このたび、将来にわたり園内の更なる建物・庭園の保安全管理を充実させていくため、7月1日から庭園維持寄付金を下記のとおり改定いたします。

今後も真宗本廟参拝の際には、ぜひ渉成園にも足をお運びください。

改定前		改定後(24/7/1~)	
大人	500円以上	大人	700円以上
高校生以下	250円以上	中学生・高校生	300円以上
		小学生以下	無料

読者のお便利

蓮如上人の御輿車

石川県加賀市
やまみち しろう
山道 志朗 (74歳)

先日、真宗本廟取骨のため東本願寺に行った際、参拝接待所ギャラリーで蓮如上人御影道中の御輿車が展示されており、あらためて、蓮如上人はこれに乗って毎年吉崎に来られているのだとじっくり見ることができました。

私は福井県あわら市の生まれで、蓮如

上人御影道中を、幼少の頃から現在に至るまで欠かさず吉崎別院にてお迎えし、お参りしています。新型コロナウイルスの影響で行われなかった年は寂しく思いました。

今年は昨年に続き無事に開催。別院の門の前で御影が御輿車から御輿に移され、地元消防団の方々が担いで本堂まで

石段を駆け上がる様を見、頭が下がる思いでした。

昔に比べ近年は提灯の灯が減っているように感じますが、御輿車を運ぶ変わらない姿も感じました。この蓮如上人御影道中がこれからも末永く続いていくことを願っています。

お便り募集 『同朋新聞』の感想をはじめ、日々の思いなどをお寄せください。

宛先 Eメール/shuppan@higashihongani.or.jp FAX/075-371-9211
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上 東本願寺出版「同朋新聞編集係」

◆住所・氏名・年齢・電話番号を明記してお送りください。紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただく場合があります。

東本願寺出版
おすすめ本

ご注文は
東本願寺出版
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL 075-371-9189

HPからも
ご注文が
できます

特別企画
お墓ってなんだろう?

Q&A
お墓の「?」に答えます
蒲池勢至(民俗学者)

巻頭インタビュー
シヤマザキ(アーティスト)

月刊『同朋』7月号 **最新号**

A4判・オールカラー 60頁 / 定価: 400円(税込・送料別)
年間購読: 4,200円(税込・送料込)

オープンキャンパス

7/15(月・祝)
開催時間 10:00~13:00

8/3(土)4(日)25(日)
開催時間 10:00~15:30

ご家族での参加も大歓迎!

7/15は授業実施日!
普段の大学の様子
を見ることができます!!

お問い合わせ: 入学センター
〒603-8143 京都市北区小山上総町
TEL: 075-411-8114(直通)

Be Real 寄りそう知性

大谷大学

東本願寺御用達
日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下ル
電話 (075)351-6325
フリ-FAX 0120-89-5255
定休日: 日曜日

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

